



● 母島部会の設置目的

- ・ 母島の遺産としての価値の保全に関する事項 等について議論する場

※部会では「人の暮らしと自然の調和」を目指し、生活や産業との関わりが深い地域における遺産価値の保全や外来種対策のあり方について、特に優先的に議論

● 母島部会の体制

- ・ H29～H30 母島検討会（環境省事業検討会） 遺産価値や課題等の整理

◎ H30～ 科学委員会下部 母島部会

- 管理機関で科学的な保全管理や課題の検討、課題の優先順位づけ、対策の実施をしていくことが必要
- 検討にあたっては、科学委員会の助言を得ながら進める必要があることから、平成30年度に検討会を科学委員会の下部の部会に位置づけ
- 生活や産業の観点から、母島を拠点とする地域連絡会議の構成団体等にもオブザーバーとして参加いただく

● これまでの主な検討事項

- ・ 検討会で優先的に議論を行うべき課題、検討の進め方
 - 未侵入のウズムシの侵入防止が重要。土付き苗が喫緊の課題。
 - 具体的にできることに優先的に着手。
- ・ 土付き苗の島外からの持ち込み対策、温浴の試行等
- ・ 工事用資材や車両の移動による外来種の侵入防止

これまでの検討の流れ、主な検討事項



母島
検
討
会

母島
部
会

H29年度

検討の進め方の整理

- ・母島への新たな外来種の侵入防止、母島へ侵入した外来種の属島への侵入防止が最重要課題。具体的にできることに優先的に着手していく。

課題の抽出①

- ・新たな外来種の侵入防止の中でも、未侵入のウズムシの侵入防止が重要であり、土付き苗が喫緊の課題。

土付き苗対策に関する方策の検討と並行して、次なる課題を抽出

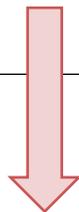
H30年度

土付き苗対策に関する方策の検討

課題の抽出②

- ・工事用資材や車両の移動による侵入防止対策の検討も進める必要がある。

H31年度
R元年度



R2年度

土付き苗の温浴に関する自主ルール制定

建設工事等における外来種対策指針の検討

R3年度

土付き苗対策の運用状況の確認、評価

R4年度

R5年度

母島部会の見直し

指針（部会最終案）の作成
科学的見地に基づく検討は概ね完了

- ・科学委員会下部 母島部会については、令和5年度をもって終了する。
- ・母島部会で取りまとめた継続課題は、地域連絡会議にて議論を引継ぐこととする。

R6年度～

運用継続予定

運用面を中心に、指針の策定に向けた関係者調整を継続予定





土付き苗の島外からの持ち込み対策、温浴の試行等に関する検討

継続検討課題

- ・普及啓発による認知度向上
- ・シロアリ条例との連携
- ・設備の利用しやすさの向上
 - 施設常設化
 - 持続的な実施体制の検討
- ・通販等による苗搬入の検出

検討会で挙げられたが未着手の課題

- ・植物体地上部に付着する外来種の対策
- ・土付き野菜、木材、動植物性製造飼肥料、園芸用土等のリスクへの対応
- ・島内圃場間の土付き苗や資材の移動に伴う外来種拡散リスクへの対応

工事用資材や車両の移動による外来種の侵入防止に関する検討

継続検討課題

- ・運用上の課題の整理
- ・搬出地や船内、港湾で一括で行える対策の検討
- ・民間工事等への展開

検討会で挙げられたが未着手の課題

- ・島内拡散の防止



- 母島部会の継続課題について、地域連絡会議で議論を進める。
- 科学委員会へ以下の事項を報告し、助言を得る。

<科学委員会への報告事項>

- 地域連絡会議での議論状況
- ははの湯や外来種対策指針の運用結果
- モニタリング結果（港湾・プランリアモニタリング）
- 侵入時初期対応状況（侵入があった場合）